

## 実践③ 霧島市立霧島中学校

### 1 はじめに

本校は霧島山系の麓に位置し、雄大な景観が開かれている。県の北東部で標高 240m、北緯 31° 49′、東経 130° 50′ に位置し、霧島市霧島中央部にある。近隣にある霧島神宮駅は令和 6 年 3 月に新しい駅舎として霧島神宮周辺の山林をイメージした鹿児島県産の杉を使った内装でリニューアルされ、観光にも力を入れている地域である。

生徒数は 85 人の小規模校である。自然に恵まれた教育環境であり、本校の特徴的な教育活動にホテルのタベや霧島ジオ学習会がある。

本校生徒の読書活動は、学習部を中心とした生徒会活動にとどまらず、全校生徒の活動となっている。

学校図書館には学校司書が常駐し、蔵書数は 7,930 冊である。

### 2 生徒の読書への関心を高める取組

#### (1) ビブリオバトル

全校生徒が参加する学級ビブリオバトルを毎年、5 月下旬に実施している。各学年の代表者 2 人を選出し、学校ビブリオバトルで決勝戦を行っている。今年は 10 月下旬にある文化祭で開催し、保護者・地域の方にも投票してもらい、校内チャンプが選ばれた。また中学生がどのような本を読んでいるか知ってもらうために霧島図書室にご協力いただき、ビブリオバトルで紹介された本の展示スペースを設けてもらった。



学級ビブリオバトル

#### (2) POP 作成

全校生徒が夏休みの課題で POP の作成に取り組んでいる。作成にあたり、夏休み前に各学年の国語の時間を利用して POP 作成講座を行った。説明を聞いた後、制作の時間を設け、自分なりの作品に取り組んでいた。完成した作品は文化祭で体育館に展示し、生徒や職員だけでなく、文化祭に訪れた保護者や地域の方々にも見ていただいた。



文化祭での POP 展示

### 3 地域と連携した取組

#### (1) 中学校の本の貸出

令和 5 年度から、新年度に入学する 6 年生を対象に、霧島地区内の 3 小学校へ中学生のおすすめ本を 2 月下旬～3 月上旬に 20 冊ずつ貸出している。中学校図書館の本に触れることで、中学校生活への楽しみを見出してもらうことが目的である。おすすめ本の選定は、学校司書と生徒会学習部で行う。児童からは小学校の図書館にはない本を読むことができ面白い、入学してからの楽しみができたなどの感想

があり、毎回好評である。

#### (2) 他機関・他校との連携

職員からの要望をもとに、公共図書館や近隣の学校図書館から本を借りて資料の提供を行っている。総合的な学習の時間における霧島市調べの学習で霧島市の各施設のリーフレットを活用したり、国語科の俳句の単元で俳人のことを調べる際に地域の方から俳句の雑誌を借りて活用したりした。



リーフレット等を活用した調べ学習

### 4 生徒会学習部の取組

令和6年度は横川中学校、中種子中学校と3校合同で、学習部（図書部）の部長、副部長によるオンライン交流会ビブリオバトルを昼休みに行い、他校の生徒との交流を図った。各校代表2人による一人3分間でのミニビブリオバトルではあったが、他校の生徒と本を通して交流することができ、本への興味が広がった様子であった。当日は部長、副部長以外の学習部の生徒にも手伝ってもらった。



オンライン交流会  
ビブリオバトル

### 5 その他の取組

#### (1) 新聞朝読書

月に1回、朝読書の時間に南日本新聞または朝日新聞の記事を10分間読む。普段、新聞を読む習慣がない生徒が多いため、月に1回、新聞を読む時間を設けた。どの学年の生徒も毎回集中して新聞を読んでいる。



新聞朝読書

#### (2) 毎月23日「子どもと一緒に読書の日」

毎月23日に、本を借りた人やクイズに回答した人にしおりや一冊おまけ券などの景品を渡すミニイベントを行なっている。クイズは『総合百科事典ポプラディア』の中から出題している。問題が書かれている紙はカプセルに入れ、ガチャガチャをひく仕組みになっている。生徒たちは楽しく本を借りたり、クイズに回答したりしている様子である。



ミニイベントの設営

### 6 今後の課題

地域との連携や他校との交流が少しずつ形になってきている。今後は家庭も加えた読書活動に発展させ、生徒たちを通して家庭での読書支援を進めていきたい。

### 7 おわりに

全校生徒が参加するビブリオバトルやPOP作成は、本校で10年以上続く伝統である。今後も継続して取り組み、生徒たちによりよい読書体験を経験させたい。